

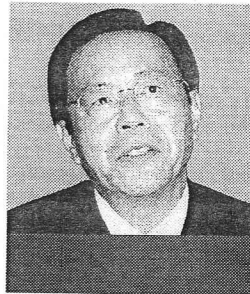
# パートナーシップで築く 世界に開かれた岡山

## OKAYAMA スローガン

**メモ**  
84年に設立。アジアやアフリカ、中南米で戦争や自然災害、貧困などで苦しむ人々を対象に医療救済と生活改善支援に取り組む国際医療ボランティア組織。

# AMDA

各国に31支部と14のアロシエクト・オフィス  
を置き、これまでに約50カ国で緊急援助や地域  
開発活動を展開。昨年8月、県から「特定非  
営利活動法人」の認定を受けた。



「パートナーシップで築く世界に開かれた岡山」をスローガンとする岡山県は昨年、「国際化」に向けて転機を迎えた。国際的な緊急医療援助活動に取り組む非政府組織(NGO)、AMDAグループ(本部・岡山市)のアムダ国際福祉事業団が、国際人道援助の専門家を育てる研修機関「公設国際貢献大学校」(哲多町)の運営を始め、

### 石井 正弘・知事

### 新春対談

一方で、岡山空港の滑走路も3000mに延びて援助物資満載の貨物便が容易に就航できるようになったからだ。これらを踏まえ、石井正弘知事と菅波茂AMDAグループ代表に対談してもらったところ、いくつもの夢ある構想が飛び出した。  
(司会は高田茂弘・毎日新聞岡山支局長)



### 菅波 茂・AMDAグループ代表

AMDAは84年の設立から今年で18年。知事はその活動をどう評価しているか。

石井知事 内外で高い評価を受けているAMDAは岡山の誇りです。国際貢献大学校の表札が揮毫するなど、県も大学校の企画を全面的に支持しています。AMDAは菅波代表とスタッフが一丸となって活動していますが、底辺には県民のボランティア精神という風土があり、それがAMDAの活動を支えているように思います。

菅波さん、地方からの国際貢献をどう進めていけばいいとお考えですか。

菅波代表 (産廃施設問題で揺れた)吉永町の住民は環境対策を学ぶため、地方から州に行きましたね。地方らしく、生活に密着した問題に取り組むNPOにはチャンスを与え、世界に飛躍させるべきです。明治維新で薩長土肥が並び称されましたが、生き残ったのは、独自に海外との結び付きを持った薩摩と長州でした。岡山が雄県になるには海外との接点を持つことが必要で、そのための資金調達策として、世界銀行などが展開する海外支援プロジェクトのワールドマネーを引っ張ってくる人材を岡山に呼ぶべき

岡山発の国際貢献をめぐる対談する石井正弘知事(左)とAMDAの菅波代表



## 「県民のボランティア精神に支えられて」

知事 県民は共感できる活動に目標を設けると燃えます。県としても、県民が元気になって潤う具体策を打ち出す時期だと思ふ。人、モノ、情報が集い、さらにIT(情報技術)を生かした国際化に向け、情報発信を続けていきたいですね。

三つの条件があります。まず県民の精神風土にマッチすること。特に教育、医療、宗教の分野は成功しやすい。次にブランド。さらに経済的なプラス。国際貢献大学校と3000m滑走路を擁し、世界を相手に活動するのは岡山の精神風土と合っている、ブランドも持っている。また県内には医療大が二つ、総合病院も多い。それらを基に国際医療協力センターを創り、在日外国人向けの医療にあたる。外国人が増え、ホテルやタクシーなども潤う。知事には実現に向けてリーダーシップを取ってほしいですね。

## 人道援助の専門家育成／物資輸送の拠点

が欠かせません。  
知事 都道府県から道州制への移行論議が出る中、地方主権の確立には、ご指摘通り地方が独自ノウハウで国際化を進めることがポイント。世界から人材を集めるという発想もユニークですね。  
菅波代表 県は中国の環境保全部を招くなど、さまざまな国際貢献策に力を入れています。  
知事 98年にAMDAと提携して招いた江西省の担当者は、水鳥コンビナートの公害防止施設などを視察しました。中国では今後、経済発展に伴って環境汚染が顕著する恐れがあります。岡山には環境汚染を克服していった経験がある。今後も技術移転を進めていきたいですね。  
菅波代表 県北の哲多町の大学校では医療や福祉分野の人材育成を進めますが、県南では「地球環境学部」を新たに設け、環境問題に取り組む人材を育てたい。そこで知事をお願いしたい。知事が信頼する経営感覚にあふれた人材を大学校に派遣してもらいたい。人材交流をすることで、知事の国際化戦略とも連携を深めていけます。  
知事 県南での新学部創設もいいアイデアですね。瀬戸内海があり、最適地ですね。

## 「国際貢献」岡山から「離陸」

岡山空港の3000m延長化が完成し、岡山発の国際貢献が一層進むと期待されています。  
知事 国際救援の拠点として育てていきたい。空港周辺に救援物資を保管する拠点施設を整備し、NPOや赤十字などによる支援機構を設けて運営する。危急の際は、物資を直行便で運ぶのです。岡山発の国際貢献策として事業化を考えたい。  
菅波代表 岡山空港を「国際貢献空港」と命名するのはいいかと思いますが。AMDAは過去3回、被災地にチャーター便を飛ばしましたが、昨年の大地震でインドに向かった際、滑走路が2500mでしたので物資積載も30tまで。3000mなら40tは運べる。延長の意義は大きい。チャーター便の費用は1回約2000万円。そこで提案です。年1000万円の募金を10万人から集める。そうすれば年4、5回は飛ばせます。  
知事 いい提案です。年1000万円で国際貢献が出来るのなら、金額的にも問題は無いでしょう。旗振り役をするのが私でしょうか。  
菅波代表 県民に、国際貢献を身近に理解してもらうにはどんな工夫が必要でしょうか。  
菅波代表 岡山で成功するには